

平成20年度調査研究「読解力を育成する教科指導」

調査研究の概要

1 はじめに

OECD（経済協力開発機構）では、平成12年より、義務教育終了段階の15歳児を対象とする国際的な学力調査「生徒の学習到達度調査」（PISSA調査：Programme for International Student Assessment）を始めた。

この調査では、義務教育終了段階の15歳児が、もっている知識や技能を実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかについて、「読解力」「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」「問題解決能力（平成15年より実施）」の4分野にわたり、主に記述式で解答を求める問題により評価が行われている。

「読解力」（「Reading Literacy」）という言葉が登場したのは、「生徒の学習到達度調査」（PISSA調査）においてであるが、この「読解力」（「Reading Literacy」）は、我が国の国語教育等で従来用いられていた『読解』ないしは『読解力』という語の意味するところとは異なり、“PISSA型「読解力」”と呼ばれているものである。（以下「読解力」と言う。）

PISSA調査では、「読解力」について次のように定義している。

Reading literacy is understanding, using, and reflecting on written texts, in order to achieve one's goals, to develop one's knowledge and potential, and to participate in society.

「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」（「OECD版国際報告書より」）

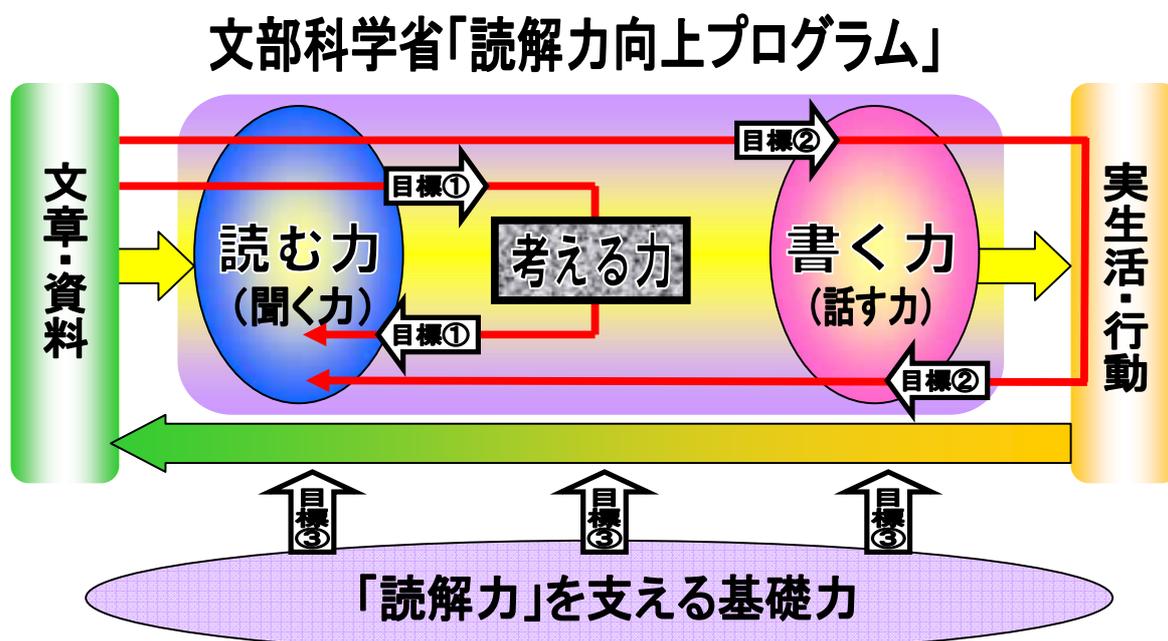
これは、文章や情報から「情報を取り出す」ことに加えて、「解釈」「熟考・評価」「論述」することを含んでいる。

平成15年度実施の同調査結果では、我が国の子どもたちの「読解力」の得点が、OECD平均程度まで低下している状況にあることが示された。この結果を踏まえ文部科学省では、平成17年に「読解力向上プログラム」及び「読解力向上に関する指導資料～PISSA調査（読解力）の結果分析と改善の方向～」を取りまとめ、各学校での取組を求めている。

読解力向上プログラムでは、PISSA型読解力の定義を踏まえ、文章や資料を単に読むだけでなく、考えながら読んだり、読んで考えたことを書いたりすることが重要だと分析している。さらに、このような能力は、実生活や行動との結び付きを意識して育成を図る必要があると考えている。ここで言う「文章・資料」とは、物語、解説、記録等の連続的な文章はもとより、図・グラフ・地図・絵といった非連続的な資料全般も含む、多様なテキストを意味している。つまり、「考える力」を中核として、「読む力」「書く力」を総合的に高めていくことが重要であり、このような「読解力」を育成するために、3つの重点目標と7つの能力の育成が示された。（図1参照）

埼玉県では、平成19年度に実施された全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、「各教科等における計画的・組織的な取組を通して、資料から読み取ったことを書いたり説明した

【図1】文部科学省「読解力向上プログラム」



- 目標①** テキストを理解・評価しながら読む力を高める取組の充実

 - ア 目的に応じて理解し、解釈する能力の育成
 - イ 評価しながら読む能力の育成
 - ウ 課題に即応した読む能力の育成
- 目標②** テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める取組の充実

 - ア テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成
 - イ 日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成
- 目標③** 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実

 - ア 多様なテキストに対応した読む能力の育成
 - イ 自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

りする力を育成すること」が、県全体としての課題として示された。さらに、埼玉県が独自に実施した小・中学校学習状況調査（平成19年1月実施）においても、「読解力」に課題があることが明らかとなっている。たとえば、中学校第2学年国語の、「日ごろの言葉づかい」について一人一人が意見文を書くという設定で、自分の意見を条件に従って書く問題がある。この問題のねらいは、自分の意見が効果的に伝わるように根拠を明らかにして書くことであるが、その正答率は52.7%であった。さらに、無解答の割合が11.5%と高く、課題が残る。また、社会でも、鎖国や貿易について、資料をもとに読み取るという問題において、正答率は33.8%にとどまるという結果が出ている。これらのことは、PISA調査の読解力でも課題として挙げられた、書かれた情報から推論して意味を理解する「テキストの解釈」、書かれた情報を自らの知識や経験に位置付ける「熟考・評価」を子どもたちが

苦手になっているということであり、資料の読み取りの過程において、「読解力」が大きな課題となっていることを示している。

こうした中、学習指導要領の改訂に向けて、平成20年1月に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会より「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」が出された。その中で子どもたちの学力について、「各種調査の結果からは、基礎的・基本的な知識・技能の習得については、(中略)一定の成果が認められる。しかし、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に課題がある。」と分析し、「これらの力は現行学習指導要領が重視し、子どもたちが社会において必要とされる力であることから、大きな課題であると言わざるを得ない。」と「読解力」育成の必要性を強調している。

そこで、昨年度の小学校での研究成果を受け、今年度は、中学校を対象に、「読解力」を育成する教科指導の在り方について、各教科領域において調査研究を行い、これからの時代に求められる学力を育成する授業展開の指針を示すこととした。

2 研究の目的

本調査研究の目的は、各学校での「読解力」育成の取組を推進するために、各教科及び総合的な学習の時間において、読解力を育成する指導方法について調査研究を進め、児童生徒の読解力を育成する授業の在り方を具体的に提案していくことである。

3 研究の内容

- (1) 読解力を育成するための指導方法の工夫について
- (2) 読解力を育成するための指導事例・モデルプランの開発について
- (3) 実践授業を通しての読解力育成の検証について

4 研究計画

平成19・20年度の2年間の調査研究とし、研究協力委員を委嘱し、所員と協力して調査研究を行う。

【平成19年度 小学校】国語、社会、算数、理科、音楽、図工、家庭、総合的な学習の時間

【平成20年度 中学校】国語、社会、数学、理科、音楽、美術、技術・家庭、外国語

<平成20年度>

回	開催期日	内 容
第1回	5/20(火)	・委嘱状交付 ・全体会(趣旨説明) ・教科別会議(研究内容及び方向性、日程等確認)
第2回	6月	・協力委員の学校における研究の方向性の確認、授業者の決定
第3回	8月	・協力委員の学校における研究の経過報告 ・検証授業における学習指導案の検討
第4回	10月～ 11月	・会場校研修(検証授業) ・授業に関する協議、課題と成果の明確化
第5回	12月	・研究のまとめ、報告書の分担、作成
	1月	・報告書の完成
	3月	・報告書のセンターHP掲載

5 研究協力委員

教科	学校名	職名	氏名	担当 指導主事
国語	県立伊奈学園中学校	教諭	富井 弘	寺沢 剛
	蓮田市立蓮田中学校	教諭	大島 琢哉	
	深谷市立上柴中学校	教諭	三橋 尚美	
	秩父市立荒川中学校	教諭	佐藤 典靖	
社会	朝霞市立朝霞第四中学校	教諭	金子 二郎	吉澤 達也
	伊奈町立小針中学校	教諭	三杉 紀文	
	鳩山町立鳩山中学校	教諭	鈴木 茂	
	行田市立忍中学校	教諭	栗原 利夫	
数学	幸手市立東中学校	教諭	小林 智樹	池田 孝司
	滑川町立滑川中学校	教諭	岩出 晃	
	横瀬町立横瀬中学校	教諭	新井 一也	
	新座市立第二中学校	教諭	森 聖	
理科	杉戸町立杉戸中学校	教諭	石田 茂生	田口 元信
	所沢市立南陵中学校	教諭	渡辺 弘之	
	狭山市立入間野中学校	教諭	利根川 浩子	
	蓮田市立蓮田南中学校	教諭	安田 修一	
音楽	鶴ヶ島市立西中学校	教諭	江原 美和子	白井 裕一
	北本市立宮内中学校	教諭	松原 正明	
	鳩ヶ谷市立鳩ヶ谷中学校	教諭	小林 環	
	草加市立新田中学校	教諭	中谷 浩一	
美術	川口市立幸並中学校	教諭	笠原 たまき	武藤 篤美
	所沢市立向陽中学校	教諭	秋元 ゆかり	
	毛呂山町立毛呂山中学校	教諭	安藤 栄信	
	桶川市立桶川東中学校	教諭	長峯 絵里子	
技術・家庭	川口市立西中学校	教諭	和久井 功雄	榭原 久子 鵜飼 道男
	川口市立戸塚中学校	教諭	宮崎 敏雄	
	熊谷市立荒川中学校	教諭	和田 久美子	
	熊谷市立江南中学校	教諭	竹田 温子	
外国語	本庄市立本庄西中学校	教諭	川田 博樹	長島 正雄
	白岡町立篠津中学校	教諭	福沢 仁恵	
	志木市立宗岡中学校	教諭	東村 祐二	
	所沢市立中央中学校	教諭	小林 美音	

6 研究のまとめ

調査研究から見えてきた各教科等における「テキスト」とは

国語

教科書の文学教材と
同作家の図書
教科書の説明的文章
教材と補助教材
古典教材
新聞記事(投書、報道)
教師作成資料
(立体模型)

社会

社会科学習の対象と
なるすべての社会的
事象
狭い意味では教科書
や地図帳、資料集、新
聞、パンフレット等の
いわゆる「資料」

算数・数学

言葉、数、式、図、表、
グラフなど様々な表
現手段で書き表され
たもの
算数の一例
速さを規定する問題
に、走る方向や体重な
どの必要のない量を
示し、算数となる条件
を読解により抽出
数学の一例
電車の営業距離と運
賃に関する非連続型
のテキストから必要
な情報を抜き出し自
分の考えをグラフや
式に表現

理科

自然における事物・現
象
実験や観察の対象と
なる事物・現象
理科にかかわる内容
を扱った新聞記事や
科学雑誌や図書
天気予報図
実験観察用ワークシ
ート

音楽

楽曲の解説や楽譜、歌
詞等の「書かれたテキ
スト」
鳴り響いている音や
音楽自体の「書かれて
いないテキスト」

図工・美術

国立博物館の日本美
術に関する展覧会の
資料や作品の展示の
仕方等。
東京都世田谷美術館
「鑑賞プログラム」に
よる児童生徒の鑑賞
実践資料
身近な博物館や資料
館にある日本美術に
関する資料、実物や模
型、レプリカ資料等
鑑賞指導に関する雑
誌や新聞の記事等

外国語

音声によるテキス
英語を聞いて話し手
の意向などを理解す
ること
自分の考えなどを話
すこと
インタビューの結果
をまとめて書くこと

家庭・技術家庭

教科書や資料集
児童・生徒が収集した
データ(身近な生活の
中、インターネット、
実験等から集めたデ
ータ)
教師が意図をもって
提示した教材、教具
児童・生徒が目的をも
って製作したもの
(例:調理品、製作品)

総合的な学習の時間

米作り等の体験活動やインタビュー、観察、実験、調査等の具体的活動
学習活動に関わる社会環境や自然環境
児童生徒が記録してきた学習カードやポートフォリオ等
ゲストティーチャーや地域人材の話 ものづくりや製作物

読解力を育成する指導方法の工夫について

本研究を通して、読解力を育成する指導方法の工夫について以下のことが分かってきた。

まず、単元や授業の導入に当たる「課題意識・課題設定」段階においては、子どもたちに本気でやってみたいと思うことに出会わせるために、体験的な活動を重視した学習計画を作成する。そのために、まず、具体的な活動や体験を大切にす。また、体験させるだけでなく、そこで感じたことや考えたことを言葉や文章で表すようにさせることで、課題意識をもちやすくさせるといった工夫をすることが大切である。

「情報の取り出し」段階においては、前述した各教科等のテキストを含む多様なテキストの中から、課題に沿って情報を取り出すことが必要になる。また、「解釈」段階では、多種多様な情報源からの情報を、価値付けしたり、自分なりにまとめたりするなど、整理・分析し思考する能力が求められる。そのためには、このような段階での思考の仕方や探究のための様々な技法を学ぶことも重要である。例えば、「情報の取り出し」段階では、情報収集のための表やグラフの読み方、インタビューの仕方やメモの取り方等、また、「解釈」段階では、イメージマップや概念化シート、KJ法といった情報を整理する手法等を習得させることも読解力の育成にとって欠かせないと考える。

さらに、情報を自らの知識や経験に位置付け自分の考えを表現する「熟考・評価」段階においては、例えば、問題・方法・結果・考察・結論といった流れを意識したレポートや論文として表すようにさせる。特定の対象に向けた提言や発表であるならば、それを意識して整理し直し表現させる。また、音楽、図工・美術、家庭、技術・家庭、総合的な学習の時間等では読み解いたことを製作や作品という形で表現させる。

このように指導方法を工夫することによって、子どもたちが課題への切実感をもち、こだわって丹念に思考し、自分なりの考えを表現することの楽しさや達成感を味わうことを通して、読解力を育成することができるものと考えられる。

7 参考・引用文献

- (1) PISA 2003 年調査 評価の枠組み - OECD 生徒の学習到達度調査 -
国立教育政策研究所監訳 ぎょうせい 平成 16 年 5 月
- (2) 生きるための知識と技能 2
- OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA) 2003 年調査国際結果報告書 -
国立教育政策研究所編 ぎょうせい 平成 16 年 12 月
- (3) 読解力向上に関する指導資料 文部科学省 平成 17 年 12 月
- (4) 読解力向上プログラム 文部科学省 平成 17 年 12 月
- (5) 初等教育資料 文部科学省 平成 18 年 5・6・7 月号
- (6) 中等教育資料 文部科学省 平成 18 年 4 月号
- (7) 読解力向上をめざした授業づくり - 低学年・中学年・高学年 -
井上一郎・安野功・吉川成夫・日置光久・田村学編著 東洋館出版社 平成 18 年 8 月
- (8) 平成 18 年度埼玉県小・中学校学習状況調査報告書 埼玉県教育委員会 平成 19 年 7 月
- (9) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の
学習指導要領等の改善について (答申) 中央教育審議会 平成 20 年 1 月

- (10)データを子どもの学力向上につなげる（平成19年度全国学力・学習状況調査報告）
埼玉県検証改善委員会・埼玉県教育委員会 平成20年2月
- (11)学習指導要領
文部科学省 平成20年3月
- (12)平成19年度調査研究「読解力を育成する教科指導（小学校）」
埼玉県立総合教育センター 平成20年3月
- (13)平成19年度埼玉県小・中学校学習状況調査報告書 埼玉県教育委員会 平成20年7月
- (14)平成20年度埼玉県小・中学校学習状況調査報告書 埼玉県教育委員会 平成20年10月